

## 共通語形と方言形の現れ方

——北奥四地点の基礎語彙調査から——

本 堂 寛\*

(1977年7月6日受理)

### 一. はじめに

方言社会において、その方言体系が共通語<sup>1)</sup>体系とどの程度重なり合うか、また距離があるかによって、ある地域社会の言語をかなり共通語的であるとか、非常に分かりにくい方言であるとか意識する。その実態について、音韻・アクセントの面はほぼ明らかにされたと言ってよく、語法の面もこれに次いでいる。しかるに、語彙の面はほとんど手をつけられていない。これは、方言の語彙体系の把握がなかなか困難だからであろう。しかし、このことについて、方言社会の共通語化の問題ともかかわって、早急にその実態が明らかにされなければならない。

幸いにして、昭和50年から、文部省科学研究費による「日本諸方言における基礎語彙の研究」(代表 平山輝男)が全国規模で行われており、筆者もそのメンバーとして加わっている。方言基礎語彙の定義およびその範疇についてはさまざまな見方・考え方があがるが、この研究のための基礎語彙調査票は、既成の基礎語彙表をじゅうぶん参考にし、また、全国の方言社会に普遍的に通用するよう吟味し、作成したものである。

この調査票を用いて調査し、方言社会の基礎語彙の特徴を、共通語形と方言形の現れ方という点から明らかにしようとしたのが本稿である。

### 二. 調査の内容および方法

方言社会で使用されていると考えられる全基礎語彙約3,000語を調査した。本稿で資料として使用したのは、紙面の関係で「植物」・「人間関係」・「感情・行動」の三部門に限定した。「植物」は客観的存在物、「人間関係」は客観的存在物でありながら、主観的存在物としての意識も混入されているもの、「感情・行動」は主観的存在意識が濃厚なものの、それぞれの典型的部門と考えた。

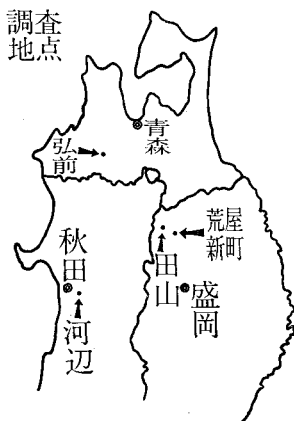
調査方法は、被調査者に面接し、項目ごとに共通語形を与えてそれに対応する方言形を聞き出すというものである。現在、方言社会での共通語の浸透が著しいため、地域社会の人々

\*岩手大学教育学部

1) 東京語を土台にし、全国のどこにでも通用することば。規範の意味合いをもつ「標準語」という語をあえて用いなかった。

にとって、方言と共通語との対応把握が容易になってきていると判断したためである。したがって、被調査者の人選も、そのような対応把握が容易にまた適切に行える人とした。

調査地点は地図に示す四地点である。



青森県弘前市は都市的性格を有する地点である。弘前市のうちでも市街地の中心を地点として選んだ。秋田県河辺郡河辺町は、秋田市から約12キロメートルの距離にある純然たる農村的性格を有する地点である。岩手県二戸郡安代町田山は秋田県と岩手県の県境近くにあり、秋田県花輪市との交流もある純然たる山村の性格を有する地点である。岩手県二戸郡安代町荒屋新町は、岩手県のやや内陸寄りに位置する山村の性格を有する地点である。田山と荒屋新町とは、現在でこそ同じ安代町に属するが、かつては、ほとんど交流のなかった地域同士である。

被調査者は、弘前と河辺については一名ずつだが、田山と荒屋新町については、各二名である。それぞれの二名は、調

査項目を分担している。

被調査者氏名、生年、および調査年月は次の通りである。

青森県弘前市

斎藤 正 明治41年生まれ 昭和50年8月調査

秋田県河辺郡河辺町

田口政一 大正5年生まれ 昭和51年8月調査

岩手県二戸郡安代町田山

八幡ツエ 大正5年生まれ 昭和51年12月調査

金沢アサ 明治42年生まれ 昭和51年12月調査

岩手県二戸郡安代町荒屋新町

斎藤種男 明治40年生まれ 昭和51年12月調査

高村良雄 明治43年生まれ 昭和51年12月調査

### 三. 調 査 結 果

以下、調査した結果を列記するが、地点名の略称は次の通りである。

<弘>弘前市、<河>河辺町、<田>安代町田山、<荒>安代町荒屋新町

項目名、地点名、現れた語形、の順に記す。記された語形が一つの場合、それだけを使用するということであり、記された語形が二つないし三つの場合、そのいずれをも使用するということである。その場合、使用の程度・状況は無視した。項目の順序は、部門ごとに品詞別区分をし、さらにその中を項目別にアイウエオ順にして示す。語形は実際の音声に近いカタカナで表記するが、音声そのものではない。ガ行鼻濁音は「カ°」「キ°」「ク°」……で、弱い鼻音は小文字「ン」で、長音は棒線「ー」で、それぞれ表す。また、語形が現れない場合「無」とした。

## 植 物

## 〔名詞〕

- あさ(麻) <弘>アサ, <河>アサ・イド, <田>イド, <荒>アサ  
あさがお(朝顔) <弘>アサカ°オ, <河>アサカ°オ, <田>アサカ°オ, <荒>アサカ°オ  
あずき(小豆) <弘>アズギ, <河>アズギ, <田>アズギ, <荒>アズギ  
あぶらな(油菜) <弘>ナダネ, <河>アオナ・ナダネ, <田>フグダジ, <荒>ナダネ  
あやめ(菖蒲) <弘>アヤメ, <河>ショドメ, <田>アヤメ, <荒>アヤメ  
あわ(粟) <弘>アワ, <河>アワ, <田>アワ, <荒>アワ  
いちご(苺) <弘>イジコ°, <河>インジグ, <田>イジコ°, <荒>イジコ°  
いちぢく(無花果) <弘>イチジグ, <河>イチジグ, <田>無, <荒>イチジグ  
いちょう(公孫樹) <弘>イチョー, <河>イジヨ, <田>イジヨー, <荒>イジヨー  
いね(稲) <弘>イネ, <河>イネ, <田>イネ, <荒>イネ  
うり(瓜) <弘>マガ, <河>ウリ, <田>カダウリ, <荒>カダウリ  
うるし(漆) <弘>ウルシ, <河>ウルシ, <田>ウルシ, <荒>ウルシ  
うめ(梅) <弘>ンメ, <河>ンメ, <田>メッコ, <荒>メ  
えだ(枝) <弘>イダッコ, <河>イダ, <田>エダ, <荒>エダ  
えんどう(豌豆) <弘>ニドマメ, <河>ヨサグマメ, <田>ニドマメ, <荒>スカ°ワリ  
おちば(落葉) <弘>オジバ, <河>カレハ, <田>オジバ, <荒>オジバ  
おちまつば(落松葉) <弘>無, <河>マズノオジバ, <田>マツッパ, <荒>オジバ  
かえで(楓) <弘>モミジ, <河>モミジ・イダヤ, <田>モミジ・イダヤノギ, <荒>  
モミジ  
かき(柿) <弘>カギ, <河>カギ, <田>カギ, <荒>カギ  
かび(黴) <弘>かんブケ, <河>カンブケ, <田>カンブケ, <荒>カブレ・カンブケ  
かぶ(株) <弘>カンブ, <河>カンブ, <田>カブ, <荒>ネカブ  
かぼちゃ(南瓜) <弘>トナス, <河>ドフラ, <田>カボチャ, <荒>カボチャ  
かわ(皮) <弘>カワ, <河>カワ, <田>カワ, <荒>カワ  
き(木) <弘>キ, <河>キ, <田>キ, <荒>キ  
きく(菊) <弘>キグ, <河>キグ, <田>キグ, <荒>キグ  
きのこ(茸) <弘>キノゴ, <河>キノゴ, <田>キノゴ, <荒>キノゴ  
きび(黍) <弘>キミ, <河>キミ, <田>タガキビ, <荒>イナキミ  
きゅうり(胡瓜) <弘>キウリ, <河>ウリ, <田>キウリ, <荒>キウリ  
きり(桐) <弘>キリ, <河>キリ, <田>キリ, <荒>キリ  
きりかぶ(切株) <弘>キリカブ, <河>ネッコ, <田>キリカブ, <荒>キリカブ  
くき(莖) <弘>クギ, <河>クギ, <田>シンコ, <荒>ジグ  
くさ(草) <弘>クサ, <河>クサ, <田>クサ, <荒>クサ  
くだもの(果物) <弘>それぞれの果物名, <河>それぞれの果物名, <田>それぞれの  
果物名, <荒>クダモノ  
くり(栗) <弘>クリ, <河>クリ, <田>クリ, <荒>クリ  
栗・くるみの類 <弘>それぞれの種類名, <河>それぞれの種類名, <田>それぞれの種

類名, <荒>それぞれの種類名

- くわ(桑) <弘>クワ, <河>クワンノギ, <田>クワッコ, <荒>クワー  
くわのみ(桑の実) <弘>クワノミ, <河>クワンコ°, <田>クワッコノミ, <荒>クワ  
ノミ  
けやき(樺) <弘>ケヤギ, <河>ケヤギ, <田>ケヤギ, <荒>ケヤギ  
げんのしょうこ(牦牛児) <弘>ゲンノショーゴ, <河>ゲンノショーゴ, <田>ゲンノ  
ショーゴ, <荒>ゲンノショーゴ  
こうよう(紅葉) <弘>モミジ, <河>モミジ, <田>モミジ, <荒>イロツダ  
こけ(苔) <弘>コゲ, <河>コゲ, <田>コゲ, <荒>コゲラ  
こずえ(梢) <弘>スンコ, <河>エンダ・ウラ, <田>スン・テッペン, <荒>エダ  
ごぼう(午蒬) <弘>ゴンボ, <河>ゴンボー, <田>ゴンボ, <荒>ゴンボー  
こんにゃく(蒟蒻) <弘>コンニャグ, <河>コンニャグ, <田>コンニャグ, <荒>コン  
ニャグ  
こんぶ(昆布) <弘>コンブ, <河>コンブ, <田>コンブ, <荒>コンブ  
さくら(桜) <弘>サグラ, <河>サグラ, <田>サグラ, <荒>サグラ  
ささ(笹) <弘>ササ, <河>ササ, <田>ササ, <荒>ササ  
さつまいも(甘藷) <弘>サズマイモ, <河>サズマイモ, <田>サズマイモ, <荒>サ  
ズマイモ  
さといも(里芋) <弘>ジギイモ, <河>イモノゴ, <田>イモノゴ, <荒>イモノゴ  
しそ(紫蘇) <弘>シソ, <河>チソ, <田>シソ, <荒>シソ  
しだ(齒朶) <弘>シダ, <河>ホダ, <田>ホダ・カグマ, <荒>ホダ  
じゃがいも(馬鈴薯) <弘>ゴショイモ, <河>ジャカ°イモ, <田>ニドイモ, <荒>  
ニドイモ・イモ  
すいか(西瓜) <弘>スイグワ, <河>スイグワ, <田>スイグワ, <荒>スイグワ  
すぎ(杉) <弘>スキ°, <河>スンギ, <田>スンキ°, <荒>スキ°  
すすぎ(薄) <弘>ススギ, <河>カヤ, <田>カヤ・カヨシ, <荒>ススギ  
すぎな(杉菜) <弘>スキ°ナ, <河>モジクサ, <田>スキ°ナ, <荒>スキ°ナ  
すみれ(堇) <弘>スマレ, <河>スマレ, <田>スマレ, <荒>スマレ  
そば(蕎麦) <弘>ソバ, <河>ソバ, <田>ソバ, <荒>ソバ  
そらまめ(蚕豆) <弘>ソラマメ, <河>ケツマメ, <田>ソラマメ, <荒>ソラマメ  
だいこん(大根) <弘>デゴ, <河>デゴン, <田>デゴ, <荒>デゴ  
だいず(大豆) <弘>ダイズ, <河>マメ, <田>マメ, <荒>マメ  
たけ(竹) <弘>タゲ, <河>タゲ, <田>タゲ, <荒>タゲ  
たけのこ(筍) <弘>タゲノゴ, <河>タゲノゴ, <田>タゲノゴ, <荒>タゲノゴ  
たね(種) <弘>タネ, <河>タネ, <田>タネッコ, <荒>タネ  
たんぽぽ(蒲公英) <弘>クマクマノハナコ, <河>タンポポ, <田>タンポポ, <荒>  
タンポポ  
ちゃ(茶) <弘>オジャ, <河>チャ, <田>オジャッコ, <荒>オジャ  
つくし(土筆) <弘>ツグツグシ, <河>無, <田>スキ°ナノコ, <荒>ツグシ  
つばき(椿) <弘>ツバギ, <河>ツバギ, <田>ツバギ, <荒>ツバギ

- つぼみ(蕾) <弘>ツボコ, <河>ツボ, <田>ツボコ, <荒>ツボ  
 つる(蔓) <弘>ツル, <河>ツタ, <田>ツル, <荒>ツル  
 とうがらし(唐辛子) <弘>ナンバ, <河>ナンバン, <田>ナンバ, <荒>ナンバン  
 とうもろこし(玉蜀黍) <弘>キミ, <河>キミ, <田>チョッキビ, <荒>チョキビ  
 どくだみ(葎菜) <弘>イスノヘ, <河>ドグダンビ, <田>ドグダミ, <荒>ドグダミ  
 とげ(刺) <弘>トンキ°, <河>トンキ°, <田>トケ°, <荒>トケ°  
 とまと(赤茄子) <弘>トマト, <河>トナス, <田>トナス, <荒>トマト  
 な(菜) <弘>ナ, <河>アオモノ, <田>ナッパ, <荒>ナッパ  
 ながいも(長芋) <弘>ジネンジョ・ヤマイモ, <河>トロロイモ, <田>トロロイモ,  
 <荒>ナカ°イモ・トロロイモ  
 なし(梨) <弘>ナシ, <河>ナシ, <田>ナシ, <荒>ナシ  
 なす(茄子) <弘>ナス, <河>ナス, <田>ナス, <荒>ナス  
 にんじん(人参) <弘>ニンジン, <河>ニンジ, <田>ネンジ, <荒>ネジ  
 にんにく(胡) <弘>ニンニグ, <河>ニノゴ, <田>ニンニョグ, <荒>ニンニグ  
 ね(根) <弘>ネッコ, <河>ネッコ, <田>ネッコ, <荒>ネッコ・ネ  
 ねぎ(葱) <弘>ネキ°, <河>ネンキ°・ネブガ, <田>ネキ°, <荒>ネキ°  
 は(葉) <弘>ハッパ, <河>ハ, <田>ハッコ, <荒>ハッコ  
 はす(蓮) <弘>ハス, <河>ハス, <田>ハス, <荒>ハス  
 はな(花) <弘>ハナ, <河>ハナ, <田>ハナンコ, <荒>ハナ  
 ばら(薔薇) <弘>バラ, <河>バラ, <田>バラ, <荒>バラ  
 ひえ(稗) <弘>ヒエ, <河>フェー, <田>フェー, <荒>へー  
 ひがんばな(彼岸花) <弘>ヒカ°ンバナ, <河>ダミバナ・ホドゲバナ, <田>無,  
 <荒>無  
 ひのき(桧) <弘>ヒノギ, <河>ヒノギ, <田>ヒノギ, <荒>ヒノギ  
 ひょうたん(瓢箪) <弘>フクベ, <河>フグベ, <田>フグベ, <荒>フグベ  
 びわ(枇杷) <弘>ビワ, <河>無, <田>無, <荒>ビワ  
 ふき(蓆) <弘>フギ, <河>フギ, <田>フギ, <荒>フギ  
 ふきのとう(蓆の臺) <弘>パッケタズ, <河>パッケ, <田>パッケッコ, <荒>パンケ  
 ふし(節) <弘>フシ, <河>フシ, <田>フシ, <荒>タゲッブシ  
 ふじ(藤) <弘>フジ, <河>フジ, <田>フジ, <荒>フジ  
 へた(蓆) <弘>ヘタコ, <河>ヘタ, <田>ヒタ, <荒>ヘダ  
 へちま(糸瓜) <弘>ヘチマ, <河>フェチマ, <田>ヘチマ, <荒>ヘジマ  
 ほ(穂) <弘>ホ, <河>ホ, <田>ホッコ, <荒>ホ  
 ほうせんか(鳳仙花) <弘>ホーセンカ, <河>エグワンコ, <田>コーセンコ, <荒>  
 ホーセンコー  
 ほおずき(酸漿) <弘>ホズギ, <河>ホズギ, <田>ホズゲ, <荒>ホーズゲ  
 ぼたん(牡丹) <弘>ボタン, <河>ボダン, <田>ボダン, <荒>ボダン  
 まつ(松) <弘>マズ, <河>マズ, <田>マズ, <荒>マズ  
 まつかさ(松毬) <弘>ボックリ, <河>マツコボ・マツフク°リ, <田>マツカッチャ  
 <荒>マツカッチャ

- まめ (豆) <弘>マメ, <河>マメ, <田>マメ, <荒>マメ  
 み (実) <弘>ミッコ, <河>ミ, <田>ミッコ, <荒>ミ  
 みかん (蜜柑) <弘>ミガン, <河>ミガン, <田>ミガン, <荒>ミガン  
 みき (幹) <弘>ミギ, <河>ドーギ, <田>ドーゴロ, <荒>ドーギ  
 め (芽) <弘>メッコ, <河>モエ, <田>メッコ, <荒>メ  
 も (藻) <弘>モ, <河>無, <田>無, <荒>カナ  
 もも (桃) <弘>モモ, <河>モモ, <田>モモ, <荒>モモ  
 やさい (野菜) <弘>アオモノ, <河>アオモノ, <田>ナッパ, <荒>ナッパ  
 やなぎ (柳) <弘>ヤナキ°, <河>ヤナキ°, <田>ヤナキ°, <荒>ヤナキ°  
 やに (脂) <弘>マズヤニ, <河>ヤズノヤニ, <田>ヤニ, <荒>マズヤニ  
 ゆり (百合) <弘>ユリ, <河>ヨロ, <田>ユリ, <荒>イリ  
 よもぎ (蓬) <弘>ヨコ°ミ, <河>エモキ°, <田>ヨコ°ミ, <荒>ユムキ°  
 らっかせい (落花生) <弘>カントマメ, <河>カントマメ, <田>ナンキンマメ, <荒>  
 ナンキンマメ  
 らっきょう (辣蕪) <弘>ラッキョー, <河>ラッキョー, <田>ラッキョー, <荒>ラ  
 ッキョー  
 りんご (林檎) <弘>リンコ°, <河>リンコ°, <田>リンコ°, <荒>リンコ°  
 わかめ (若布) <布> <弘>ワガメ, <河>ワガメ, <田>ワガメ, <荒>ワガメ  
 わた (綿) <弘>ワダ, <河>ワダ, <田>ワダ, <荒>ワダ  
 わらび (蕨) <弘>ワラビ, <河>ワラビ, <田>ワラビ, <荒>ワラビ  
 [動詞]  
 うえる (植) <弘>ウエル, <河>ウエル, <田>ウエル, <荒>ウエル  
 かる (刈) <弘>カル, <河>カル, <田>カル, <荒>カル  
 かれる (枯) <弘>カレル, <河>カレル, <田>カレル, <荒>カレル  
 くさる (腐—芋が一) <弘>クサル, <河>クサル, <田>クサル, <荒>クサル  
 さく (咲) <弘>サグ, <河>サグ, <田>サグ, <荒>サグ  
 しおれる (萎) <弘>カレル, <河>シオレル・シナピケル, <田>シナビル, <荒>シ  
 ダレル  
 しげる (茂) <弘>オカ°, <河>オエル・オカ°, <田>オカ°, <荒>オカ°ル・  
 ハビゴル  
 しなびる (萎) <弘>ヒカラビル, <河>シナピゲル, <田>シナビル, <荒>ホセル  
 しぼむ (萎) <弘>シボム, <河>シボマル, <田>シボマル, <荒>シボム  
 じゅくす (熟—稲が一) <弘>カンジュグス, <河>カリドギダ, <田>トショッタ,  
 <荒>カリコ°ロダ  
 じゅくす (熟—柿が一) <弘>アガグナル, <河>ンダ, <田>ンダ, <荒>ンダ  
 じゅくす (熟—栗が一) <弘>ジュグス, <河>マガル, <田>ジュグス, <荒>デル  
 そだつ (育) <弘>オカ°, <河>オッキグナル・オカ°, <田>オカ°, <荒>オ  
 カ°ル  
 ちる (散—葉が一) <弘>チル, <河>オジル, <田>オジル, <荒>オジル  
 つむ (摘) <弘>ツム, <河>ツム, <田>ツム, <荒>トル

なる（生一実が一）〈弘〉ナル，〈河〉ナル，〈田〉ナル，〈荒〉ナル  
 のびる（伸）〈弘〉オカ<sup>○</sup>ル，〈河〉オッキグナル，〈田〉オカ<sup>○</sup>ル，〈荒〉オカ<sup>○</sup>ル  
 はえる（生一穢が一）〈弘〉ハエル，〈河〉カンブゲル，〈田〉ツグ，〈荒〉ツグ  
 はえる（生一草が一）〈弘〉オカ<sup>○</sup>ル，〈河〉オエル・オカ<sup>○</sup>ル，〈田〉オカ<sup>○</sup>ル，〈荒〉  
 オエル

### 人間関係

#### 〔名詞〕

あかんぼ（赤子）〈弘〉アガンボ，〈河〉ビッキ，〈田〉アカンボ・ビッキ，〈荒〉オボ  
 コ・ビッキ  
 あととり（嗣子）〈弘〉アドトリ・アンコ，〈河〉アドトリ，〈田〉エドリ，〈荒〉アド  
 トリ  
 あに（兄）〈弘〉アンサ，〈河〉アニ・アンコ・セナ，〈田〉アニ・ニューサン，〈荒〉アニ  
 あね（姉）〈弘〉アネサ，〈河〉アネ・アネコ，〈田〉アネッコ・ネッチャ，〈荒〉アネ  
 いとこ（従兄弟）〈弘〉イドゴ，〈河〉イドゴ，〈田〉キューデナシコ<sup>○</sup>，〈荒〉イドゴ  
 いもうと（妹）〈弘〉無，〈河〉イモート，〈田〉イモート，〈荒〉名前  
 おい（甥）〈弘〉オイッコ，〈河〉オイッコ，〈田〉オイッコ，〈荒〉オイッコ  
 おじ（叔父—他人に対して—）〈弘〉オジオヤ，〈河〉オンジ・オジキ，〈田〉オンツァ  
 ン，〈荒〉オンジ  
 おじ（叔父—直接の呼びかけ—）〈弘〉オツサン，〈河〉オジサン，〈田〉オンツァン，  
 〈荒〉オジサン  
 おっと（夫—他人に対して—）〈弘〉オド，〈河〉オド・オヤジ，〈田〉オレノヒト，  
 〈荒〉オラエノオヤジ  
 おっとをなくしたおんな（寡婦）〈弘〉ゴギ，〈河〉ゴゲ，〈田〉ヒトリモノ，〈荒〉ヤ  
 モメ  
 おとな（大人）〈弘〉オドナ，〈河〉オドナ，〈田〉オドナ，〈荒〉オドナ  
 おとうと（弟）〈弘〉オンジ，〈河〉シャデー，〈田〉オンジ・シャデー，〈荒〉オンジ  
 おとこ（男）〈弘〉オドゴ，〈河〉オドゴ，〈田〉オドゴ，〈荒〉オドゴ  
 おとこ（男—卑称—）〈弘〉ツボコ，〈河〉ヤロー，〈田〉ヤロー，〈荒〉ヤロー  
 おとこのこ（男児）〈弘〉オドゴワラシ，〈河〉オドゴッコ，〈田〉オドゴワラシ，〈荒〉  
 オドゴワラシ  
 おば（叔母—他人に対して—）〈弘〉オバオヤ，〈河〉オバ，〈田〉オバチャン，〈荒〉  
 オンバ  
 おば（叔母—直接の呼びかけ—）〈弘〉ウバサン，〈河〉オバサン，〈田〉オバチャン，  
 〈荒〉オバサン  
 おや（親）〈弘〉オヤ，〈河〉オヤ，〈田〉オヤ，〈荒〉オヤ  
 おんな（女）〈弘〉オナコ<sup>○</sup>，〈河〉オナコ<sup>○</sup>，〈田〉オナコ<sup>○</sup>，〈荒〉オナコ<sup>○</sup>  
 おんな（女—卑称—）〈弘〉メラシ，〈河〉ベッチャクサレ・オナクサレ，〈田〉ビッタ  
 〈荒〉無  
 おんなのこ（女兒）〈弘〉オナコ<sup>○</sup>ワラシ，〈河〉オナンコ，〈田〉オナコ<sup>○</sup>ワラシ，〈荒〉

オナコ<sup>o</sup>ワラシ

おんなのこ（女兒—卑称—）〈弘〉無，〈河〉メッチャコ，〈田〉ピッタ，〈荒〉ピッタ  
コ

かぞく（家族）〈弘〉カゾグ，〈河〉ケネー，〈田〉カゾグ，〈荒〉カナイジュー

きょうだい（兄弟・姉妹）〈弘〉オドゴ（オナコ<sup>o</sup>）キョーダイ，〈河〉キョーデ，〈田〉  
キョーデ，〈荒〉キョーデ

こども（子供—自分の—）〈弘〉ガギ，〈河〉ガギ，〈田〉ガギ，〈荒〉ガギ

こども（子供—大人に対する—）〈弘〉ワラシ，〈河〉ワラシコ，〈田〉ワラシ，〈荒〉  
ワラシ

こもり（子守）〈弘〉アダコ，〈河〉コモレ・コモリッコ，〈田〉コモリ，〈荒〉コモリ

じじょ（次女）〈弘〉無，〈河〉ンバチャ，〈田〉名前，〈荒〉ニバンメノムスメ

じなん（次男）〈弘〉オンジ，〈河〉オンチャ〈田〉オンジ，〈荒〉オンジ

しゅうと（舅）〈弘〉シュード，〈河〉シュード，〈田〉シュード，〈荒〉シュード

しゅうとめ（姑）〈弘〉シュードメ，〈河〉シュード，〈田〉シュードメ，〈荒〉シュエ  
ドメ

しんるい（親類）〈弘〉オヤグマギ，〈河〉シンヌイ・マギ，〈田〉イドゴ，〈荒〉イドゴ

すえっこ（末子）〈弘〉ヨデッコ・パッシ・ヤズメカシ・ウラナリ，〈河〉パッチ，〈田〉  
フグロパタギ，〈荒〉スッパリッコ

せんぞ（先祖）〈弘〉ゴセンゾ，〈河〉センゾ・センソ，〈田〉センゾ，〈荒〉センソ

そうそふ（曾祖父）〈弘〉オジサ，〈河〉ジッチャ・オージッチャ，〈田〉アンマ，〈荒〉  
オーオジ

そうそぼ（曾祖母）〈弘〉オバサ，〈河〉バンバ・オーバッチャ，〈田〉オーンバ，〈荒〉  
オーオバ

そふ（祖父—普通の言い方—）〈弘〉ジ，〈河〉ジサマ，〈田〉ジサマ，〈荒〉アンマ

そふ（祖父—やや上品な言い方—）〈弘〉ジッチャ，〈河〉ジッチャ，〈田〉ジッチャ，  
〈荒〉ジッチャ

そふ（祖父—上品な言い方—）〈弘〉オジサ，〈河〉オジサ，〈田〉オジサン，〈荒〉ジ  
サマ

そぼ（祖母—普通の言い方—）〈弘〉バ，〈河〉パパ，〈田〉ババ・バサマ，〈荒〉オバ  
・バッチャ

そぼ（祖母—やや上品な言い方—）〈弘〉オバンチャ，〈河〉無，〈田〉バッチャ，  
〈荒〉バサマ

そぼ（祖母—上品な言い方—）〈弘〉オバサ，〈河〉ババサ，〈田〉オバサン，〈荒〉オ  
バサン

ちち（父—普通の言い方—）〈弘〉オド・テデ，〈河〉テデ，〈田〉アヤ，〈荒〉アヤ

ちち（父—やや上品な言い方—）〈弘〉オドサ，〈河〉オド，〈田〉ドド，〈荒〉ドド

ちち（父—上品な言い方—）〈弘〉オドサ，〈河〉オドサ，〈田〉チャ，〈荒〉オドサン

ちち（父—他人の父の言い方—）〈弘〉オドサ，〈河〉オドサ，〈田〉アヤナッテ，〈荒〉  
アヤナ

ちょうじょ（長女）〈弘〉アネサ，〈河〉アネッコ，〈田〉名前，〈荒〉オッキムスメ



- ちょうなん (長男) <弘>アンサ, <河>アンコ, <田>アニ, <荒>アニ  
 つま (妻) <弘>オガ, <河>カガ, <田>オレノヤズ・名前, <荒>オラエノアッパ  
 つまをなくしたおとこ (寡夫) <弘>無, <河>ヤモメ・ヒトリジー, <田>ヒトリオド  
 ゴ, <荒>ヤモメ  
 としより (年寄) <弘>トショリ, <河>トショリ, <田>トショリ, <荒>トショリ  
 ともだち (友達) <弘>ケヤグ・ドヤグ, <河>ドヤグ, <田>トモダジ, <荒>ケヤグ  
 はは (母—普通の言い方) <弘>オガ・アッパ, <河>カガ・アパ, <田>アッパ,  
 <荒>アッパ  
 はは (母—やや上品な言い方) <弘>オガサ, <河>オガ, <田>ガガ, <荒>ガガ  
 はは (母—上品な言い方) <弘>オガサ, <河>オガチャ, <田>ジャジャ, <荒>オ  
 ガサン  
 はは (母—他人の母の言い方) <弘>オガサ, <河>オガチャ, <田>アッパナッテ,  
 <荒>アッパナ  
 ひと (人) <弘>フト, <河>フト, <田>フト, <荒>フト  
 ひまご (曾孫) <弘>ヒコ, <河>ヒコマコ°, <田>ヒコマコ°, <荒>ヒコマコ°  
 ふうふ (夫婦) <弘>フーフ, <河>フーフ, <田>フーフ, <荒>フーフ  
 ふたご (双生児) <弘>フタコ°, <河>フタコ°・フェタコ°, <田>フタツコ°, <荒>  
 ヒタッコ  
 ぶんけ (分家) <弘>イッコ, <河>ベッケ, <田>ブンケ, <荒>カマド  
 ほんけ (本家) <弘>ホンケ・マギ, <河>ほんけ, <田>ホンケ, <荒>ホンケ  
 まご (孫) <弘>マコ°, <河>マコ°, <田>マコ°, <荒>マコ°  
 ままはは (継母) <弘>アドカガ・ゴギ, <河>チャモレ, <田>ゴギ, <荒>ゴゲ  
 むこ (婿) <弘>ムゴ, <河>モゴ, <田>モゴ, <荒>モゴ  
 むすこ (息子) <弘>セカレ, <河>セカレ, <田>アニ, <荒>アニ・ワラシヤド  
 むすめ (息女) <弘>ムスメ, <河>ムスメ, <田>アネ・アダ・名前, <荒>ムスメ・  
 ワラシヤド  
 めい (姪) <弘>メッコ, <河>メゴ, <田>メッコ, <荒>メッコ  
 めかけ (妾) <弘>メガゲ, <河>メガゲ, <田>オナメッコ, <荒>オナメ  
 やしゃご (玄孫) <弘>ヤシャコ°, <河>ヤシャコ°, <田>ヤシャコ°, <荒>ヤシャコ°  
 よめ (嫁) <弘>ヨメ, <河>ヨメ, <田>ヨメ, <荒>ヨメ

## 感情・行動

## 〔名詞〕

- あいきょう (愛嬌) <弘>メンコイ, <河>アイギョー, <田>無, <荒>キリョーイー  
 あいそう (愛想) <弘>アイソー, <河>アイソー, <田>ケーハグタガリ, <荒>キリ  
 ョーイー  
 あまのじゃく (天の邪鬼) <弘>ヘソマカリ, <河>カダッパリ, <田>無, <荒>ヘ  
 ソマカリ  
 いじ (意地—意地が悪い) <弘>イジ, <河>イジ, <田>イジ, <荒>イジ  
 えがお (笑顔) <弘>ワライカ°オ, <河>ワライカ°オ, <田>ワラェカ°オ, <荒>ワ

レァカ°オ

おくびょうもの（臆病者）〈弘〉ジグナシ、〈河〉ジグナシ、〈田〉ジグナシ、〈荒〉ジグナシ

おしゃれ（洒落）〈弘〉オシャレ、〈河〉ダデマゲル・クサズマゲル、〈田〉ジンピ・ヘンケ、〈荒〉メガス

おてんば（御転婆）〈弘〉オドゴジャッパ、〈河〉ガサキ°、〈田〉キカンボ、〈荒〉オナコ°ピッタ

おひとよし（好人物）〈弘〉ヒトッコイー、〈河〉オッチョゴチョイ、〈田〉ヒトッコイー、〈荒〉バガシヨージギダ・ヒトイー

かわりもの（変人）〈弘〉キジンコ、〈河〉カワリモノ、〈田〉カワッテルヒト、〈荒〉カワリモノ

き（気一気をもむ一）〈弘〉キ、〈河〉キ、〈田〉キ、〈荒〉キ

きげん（機嫌）〈弘〉キケ°ン、〈河〉キケ°ン、〈田〉キケ°ン、〈荒〉キケ°ン

きもち（気持一気持がいい一）〈弘〉キモジ、〈河〉キモジ、〈田〉キモジ、〈荒〉キモジ

くせ（癖）〈弘〉クセ、〈河〉クセ、〈田〉クセ、〈荒〉クセ

けちんぼう（吝嗇坊）〈弘〉スワイ・ヨクタガレ、〈河〉シンボー、〈田〉ケチンボ、〈荒〉ケチクセー

こごと（小言）〈弘〉ゴタメグ、〈河〉ココ°ド、〈田〉グズメグ、〈荒〉ココ°ド

こころ（心一心がきれいな人一）〈弘〉コゴロ、〈河〉キモジ、〈田〉コゴロモジ、〈荒〉キモジ

せいしつ（性質）〈弘〉ショー・ショーッコ・タジ、〈河〉ショー・ションカ°ラ、〈田〉コゴロ、〈荒〉キモジ・コゴロモジ

とくいがお（得意顔）〈弘〉イーツラスル・イーフリスル、〈河〉イッキナル、〈田〉イーフリコグ、〈荒〉イーキシテル

なきむし（泣虫）〈弘〉ナギヤスワラシ、〈河〉ナギミシ、〈田〉ナゲツ、〈荒〉ナゲツ

なまけもの（怠者）〈弘〉カラボネヤミ、〈河〉ナマケモノ、〈田〉ナマコタガリ、〈荒〉ダンジャグ・ナマコタガリ

はたらきもの（働者）〈弘〉マメダヒト、〈河〉ハダラギモノ、〈田〉カセク°デ、〈荒〉カセキ°デ

ぶしょう（無精）〈弘〉カラブネヤミ、〈河〉無、〈田〉セッコギ、〈荒〉セッコギ

よいっぱり（宵張）〈弘〉ヨツパリ、〈河〉ヨツパリ、〈田〉ヨツパリ、〈荒〉フルアズギ

〔サ変動詞〕

あんしんする（安心）〈弘〉アンシンスル、アンドスル、〈河〉アンドスル、〈田〉ユックリス、〈荒〉アンシンス

いたずらする（戯）〈弘〉ジホス、〈河〉イダズラス、〈田〉イダズラス、〈荒〉イダズラス

おんぶする（背負）〈弘〉オブル、〈河〉ブ、〈田〉オボル、〈荒〉オボル

- くろうする(苦勞) <弘>クロースル, <河>ナンキ°ス・クルシム, <田>クス, <荒>  
ナンキ°ス・クス
- けんかする(喧嘩) <弘>ケンカス, <河>ケンクワス, <田>ケンクワス, <荒>ケン  
クワス
- しんぱいする(心配) <弘>クス, <河>シンペス・クス, <田>シンペァス, <荒>シ  
ンペス
- ちゅういする(注意) <弘>キオツケル, <河>キツケル, <田>カンケ°ス, <荒>キ  
ツカウ
- まねする(真似) <弘>マネス, <河>マネス, <田>マネス, <荒>マネス
- もうろくする(蹇碌) <弘>ボゲル・ホンツケネグナル, <河>モログス, <田>ボゲル  
・モログタガル, <荒>トボゲル
- 〔動詞〕(サ変動詞以外)
- あきらめる(諦) <弘>アギラメル, <河>ガマンスル, <田>アギラメル, <荒>アギ  
ラメル
- あきる(飽) <弘>アギル, <河>アギル, <田>アギル, <荒>アギル
- あせる(焦) <弘>セグ, <河>アセル, <田>アワデル, <荒>キモグ
- あまえる(甘) <弘>アマタレル, <河>ノサバル, <田>ヌサバル, <荒>ヌサバル
- あわてる(慌) <弘>ウルタグ, <河>ドデンスル, <田>セグ, <荒>セグ・アワクウ
- いじめる(虐—友達を一) <弘>イジル, <河>メニアヘル, <田>イジメル, <荒>ユ  
スル
- いじめる(虐—姑が嫁を一) <弘>イビル, <河>イビル, <田>イビル, <荒>イビル
- いそぐ(急) <弘>イソク°, <河>ウルタグ, <田>セグ, <荒>セグ
- いらいらする(苛々) <弘>カチャクチャスル, <河>キキデネ, <田>ハッカハッカス  
<荒>キーキデネ・ハッカハッカス
- おこる(怒) <弘>オゴル, <河>ゴシャグ, <田>オゴル, <荒>オゴル
- おちる(落—縁側から一) <弘>オジル, <河>オジル, <田>オジル, <荒>オジル
- おどける(戯) <弘>オンドゲル・ドケツグル, <河>ドゲル, <田>オンドゲル,  
<荒>オンドゲル
- おどろく(驚) <弘>ドデンスル・タマケ°ル, <河>ドデンスル, <田>ドーデンスル・  
タマケ°ル, <荒>ドーデンス・タマケ°ル
- おもいだす(思出) <弘>オモイダス, <河>オモイダス, <田>オモイダス, <荒>オ  
モイダス
- おりる(降—はしごを一) <弘>オリル, <河>オリル, <田>オジル, <荒>オジル
- がまんする(我慢) <弘>ガマンス, <河>ガマンス, <田>ガマンス, <荒>ガマンス
- がんばる(頑張—仕事で一) <弘>ケッパル, <河>キバカム, <田>ガンバル, <荒>  
シコ°ドス
- きどる(気取) <弘>イーキナル, <河>イッキナル, <田>イーフリス, <荒>イーフ  
リス
- こまる(困) <弘>コマル, <河>コマル, <田>コマル, <荒>コマル
- ころぶ(転倒) <弘>オケル, <河>コロブ, <田>オッケル, <荒>オッケル

- さわぐ(騒) <弘>サワク<sup>°</sup>, <河>サワク<sup>°</sup>, <田>サワク<sup>°</sup>, <荒>ヤガマン  
 しかる(叱) <弘>オゴル, <河>ゴシヤグ, <田>カガル, <荒>オゴル  
 すねる(拗—子どもが一) <弘>ダンジャグスル, <河>無, <田>スネクル, <荒>ツ  
 ンツクレル  
 する(為) <弘>スル, <河>スル, <田>ス, <荒>ス  
 とどく(届—手が一) <弘>トズグ, <河>トドグ, <田>トズグ, <荒>トズグ  
 なく(泣) <弘>ナグ, <河>ナグ, <田>ナグ, <荒>ナグ  
 ねだる(強請) <弘>ハダル, <河>ネダル, <田>ハダル, <荒>ハダル  
 はう(這一赤ん坊が一) <弘>ハル, <河>ハウ, <田>ヘマワル, <荒>スルマル  
 ふざける(戯—子ども同士が一) <弘>ボゴル, <河>アラカ<sup>°</sup>ウ, <田>無, <荒>ナ  
 マコスル  
 むずかる(憤) <弘>カラモク<sup>°</sup>, <河>ムズガシ, <田>ムズガシ, <荒>ムソツケル  
 やめる(止) <弘>ヤメル, <河>ヤメル, <田>ヤメル, <荒>ヤメル  
 [形容詞・形容動詞]  
 あぶない(危) <弘>アブネ, <河>アブネ, <田>アブネ, <荒>アブネ  
 いんきだ(陰気) <弘>インキクセー, <河>インキクセー, <田>ウチキダ, <荒>サ  
 ビシソーダ  
 うらやましい(羨) <弘>コノマシカ<sup>°</sup>ル・ウラヤマシカ<sup>°</sup>ル, <河>ウラマシ, <田>ウ  
 レアマシ, <荒>ウレアマシ  
 うるさい(煩) <弘>ウルセ, <河>マジェネ, <田>ヤガマン, <荒>ヤガマン  
 うれしい(嬉) <弘>オモシレ, <河>モヘ, <田>オモシロイ, <荒>オモシレ  
 おいしい(惜) <弘>アタラムシ・アドクヤミスル, <河>イダマン, <田>アッタラモン  
 ・イダマン, <荒>アッタラモン  
 おそろしい(恐) <弘>オッカネ・オワエ, <河>オッカネ, <田>オッカネ・ヒデ,  
 <荒>オッカネ  
 おとなしい(大人) <弘>オドナシ, <河>オドナシ, <田>オドナシ, <荒>シズガダ  
 おもしろい(面白) <弘>オガシ, <河>モヘ, <田>オモシロイ, <荒>オモシロイ  
 かなしい(悲) <弘>カナシ, <河>カナシ, <田>シッカダネ, <荒>サビシ  
 かわいい(可愛) <弘>メコ<sup>°</sup>イ, <河>メンケ, <田>メンコイ, <荒>メンコ<sup>°</sup>イ  
 かわいそうだ(可哀相) <弘>フビンダ, <河>ンドツラダ, <田>ツミツグリダ,  
 <荒>ツミツグリダ  
 げんきだ(元気) <弘>ゲンキダ, <河>バリギツエー, <田>キズ, <荒>ゲンキダ・  
 マメシ  
 さびしい(淋) <弘>サンビシ, <河>サビシ, <田>ギヤネ, <荒>カナシ  
 しかたがない(仕方無) <弘>シガダネ, <河>シカダネ, <田>シカダネ・コマッタ,  
 <荒>シカダネ  
 しょうじきだ(正直) <弘>ショージギダ, <河>ショージギダ, <田>ショージギダ,  
 <荒>ショージギダ  
 すきだ(好) <弘>スギダ, <河>スギダ, <田>スギダ, <荒>スギダ  
 たいくつだ(退屈) <弘>タイクズダ, <河>テァクズダ, <田>テァグズダ, <荒>テ

## ァグズダ

だらしな(一時間に一) <弘>ダラシネ, <河>ダラシネ, <田>ダラシネ, <荒>ビ  
ショタレネ

つまらない(詰無) <弘>ツマラネ, <河>ツマラネ, <田>ツマラネァ, <荒>ツマラ  
ネァ

つらい(辛) <弘>ヘズネ, <河>ツレ, <田>ツレ, <荒>ツレ

にくい(憎) <弘>ニクタラシ, <河>ニグ, <田>ウッシャラシグネァ, <荒>エラン  
グネァ

ばかだ(馬鹿) <弘>バガダ, <河>バガダ・コゲダ・バガコゲダ, <田>バガダ,  
<荒>バガダ

はがゆい(歯痒) <弘>カチャクチャネ, <河>キキデネ, <田>無, <荒>キーキデネ

ひどい(酷一仕打ちが一) <弘>ヒデ, <河>ヒデ, <田>ヒデ, <荒>ヒデ

めずらしい(珍) <弘>メズラシ, <河>メズラシ, <田>メズラシ, <荒>メズラシ

りこうだ(利口) <弘>サガシ, <河>サガシ・ハズメーダ, <田>サガシ, <荒>サガシ

わかい(若) <弘>ワゲ, <河>ワゲ, <田>ワゲ, <荒>ワゲ

## 〔副詞〕

かならず(必) <弘>カナラズ, <河>カナラズ, <田>ナンタッテ, <荒>ナンタッテ

なぜ(何故) <弘>ナシテ, <河>ナシドッテ, <田>ナニシテ, <荒>ナニシテ

ゆっくり(一ゆっくり歩く一) <弘>ユックリ, <河>ユツタリ, <田>シズガニ,  
<荒>ユックリ

以上をまとめると60・61ページの表のようになる。表中、「共通語形」は、語形が共通語形と全く同じもの、共通語形の音変種のものを含んでいる。「方言形」は、語形が共通語形と全く異なるもの、語形としては共通語形と類似しているが語形の一部が単なる音変種とは言えない異なりを示しているものを含んでいる。「別語形」は、方言形ではないが、項目名としての共通語形とは異なった語形が現れたものである。「併用」には、方言形のみ併用と、共通語形と方言形との併用がある。いずれの場合も、二語形・三語形の併用がある。各欄の上段が現れた語形の実数、下段が総語数に対する現れた語形の数の割合(パーセント)である。

これをもとにして、いくつかの観点から、それぞれの特徴を見ていく。この場合、調査語数が部門によってまた品詞によって異なるので、総語数に対する現れた語形の数の割合で比較しながら見ていく。

## (1) 地点ごとの対比

植物部門について見ると、調査語の総計では、「共通語形」の現れる割合が、弘前77.3パーセントで最も高く、河辺58.9パーセントで最も低い。その中間に、田山の65.2パーセントと荒屋新町の71.6パーセントがある。都市型の弘前に共通語形が現れ易く、農村型の河辺に共通語形が現れにくいのは、当然と言えば当然であろう。ところが、山村型の荒屋新町が、「共通語形」の現れる割合で農村型の河辺よりも都市型の弘前に近い。地点の特徴的傾向と言えよう。この点について言えば、「併用語形」のうち「方言形のみ」は弘前が1項目にしか現れず、荒屋新町が3項目であるのに対して、河辺が6項目に、田山が5項目に現れてい

る。つまり、方言形の現れ方が、河辺と田山に共通性があり、弘前と荒屋新町に類似性が見出されると言えよう。名詞と動詞とに分けてみると、名詞における「共通語形」の現れ方は弘前80.3パーセント、荒屋新町77.0パーセントとその割合はさらに接近してくる。そして、「共通語形」の現れ方の順位は、総計と変わりはない。それに対して動詞では「共通語形」の現れ方が、弘前57.9パーセントと名詞あるいは総計の場合と同じく第一位であるが、第二位は田山の47.4パーセントであり、それに河辺、荒屋新町の36.8パーセントと続く。動詞における「方言形」の現れ方で見ても、「併用」も含めて最も低い割合を示すのが弘前の26.4パーセントであり、次いで田山の36.8パーセント、荒屋新町の47.4パーセントとなり、最も高い割合を示すのが河辺の52.7パーセントである。このように、名詞と動詞とでは、「共通語形」、「方言形」の現れ方が地点によって多少違いがある。それにもかかわらず、都市型の弘前と、農村型の河辺とが依然として両極に位置している点で変わりはない。

部門	品詞 (総数)	語形の種別 (総数)	弘 前					河 辺							
			共	方	別	併用	無	共	方	別	併用	無			
			通	言	語	方言形のみ	共通方言形	通	言	語	方言形のみ	共通方言形	通	言	語
植 物	名 詞 (122)	実数	98	21	1	1	1	76	35	1	3	4	3		
		%	80.3	17.2	0.8	0.8	0.8	62.3	28.7	0.8	2.5	3.3	2.5		
	動 詞 (19)	実数	11	5	3			7	6	2	3	1			
	%	57.9	26.4	15.8			36.8	31.6	10.5	15.8	5.3				
	総 計 (141)	実数	109	26	4	1	1	83	41	3	6	5	3		
	%	77.3	18.4	2.8	0.7	0.7	58.9	29.1	2.1	4.3	3.5	2.1			
人間関係	名 詞 (72)	実数	26	32	3	5	2	4	25	33	2	8	3	1	
		%	36.1	44.4	4.2	6.9	2.8	5.6	34.7	45.8	2.8	11.1	4.2	1.4	
感 情・行 動	名 詞 (24)	実数	9	9	3	3			13	5	3	2	1		
		%	37.5	37.5	12.5	12.5			54.2	20.8	12.5	8.3	4.2		
	サ変動詞 (9)	実数	3	3	1	1	1		4	2	2		1		
		%	33.3	33.3	11.1	11.1	11.1		44.4	22.2	22.2		11.1		
	動詞(サ変以外) (31)	実数	14	14	1	1	1		16	12	2		1		
		%	45.2	45.2	3.2	3.2	3.2		51.6	38.7	6.5		3.2		
形容詞 形容動詞 (28)	実数	16	7	2	3			16	9	1	1	1			
	%	57.1	25.0	7.1	10.7			57.1	32.1	3.6	3.6	3.6			
副 詞 (3)	実数	2	1					2	1						
	%	66.7	33.3					66.7	33.3						
	総 計 (95)	実数	44	34	7	8	2	51	29	8	3	2	2		
	%	46.3	35.8	7.4	8.4	2.1	53.7	30.5	8.4	3.2	2.1	2.1			

さらに、名詞と動詞における「共通語形」の現れる割合を四地点を通して見ると、どの地点でも名詞の割合がかなり高いのに比して、動詞の割合は低い。その割合の差が、田山20.6パーセントのように比較的少ない地点がある反面、荒屋新町40.2パーセントのように大きい地点もある。四地点の平均で見ると、名詞の「共通語形」の現れ方が71.9パーセントであるのに対して動詞の「共通語形」の現れ方が44.7パーセントであって、その差が27.2パーセントである。その差は何を意味しているか。植物部門における名詞は、地域的違いによる植物の違いが多少あるにしても、多くは、全国に共通する植物の客観的名称であるということであり、それに対して、動詞は、植物の諸種の状態を示す語であるため、季節・地域などさまざまな条件のもとに表れる細かい相違を意味する必要上、多くの方言形が使われるのであろう。

人間関係部門は名詞のみである。「共通語形」の現れる割合は、地点ごとの差がそれほど

田 山					荒 屋 新 町					四 地 点 平 均							
共 通 語 形	方 言 形	別 語 形	併用		無 答	共 通 語 形	方 言 形	別 語 形	併用		無 答	共 通 語 形	方 言 形	別 語 形	併用		無 答
			方言形のみ	共通方言形					方言形のみ	共通方言形					方言形のみ	共通方言形	
83	29	1	5	4	94	23	1	2	1	1	71.9	22.2	0.8	2.3	1.0	1.9	
68.0	23.8	0.8	4.1	3.3	77.0	18.9	0.8	1.6	0.8	0.8	44.7	34.2	14.5	5.3	1.3		
9	7	3			7	8	3	1			36.8	42.1	15.8	5.3			
47.4	36.8	15.8			36.8	42.1	15.8	5.3			44.7	34.2	14.5	5.3	1.3		
92	36	4	5	4	101	31	4	3	1	1	68.3	23.8	2.6	2.7	1.1	1.6	
65.2	25.5	2.8	3.5	2.8	71.6	22.0	2.8	2.1	0.7	0.7	35.4	46.2	7.0	6.9	2.8	2.1	
27	31	8	5	1	24	36	7	2	2	1	38.6	32.3	18.8	7.3		3.1	
37.5	43.1	11.1	6.9	1.4	33.3	51.4	9.7	2.8	2.8	1.4	29.2	33.3	25.0	4.2	8.3		
7	8	6	1	2	8	9	6	1			44.4	33.3	11.1	11.1			
29.2	33.3	25.0	4.2	8.3	33.3	37.5	25.0	4.2			44.4	27.8	13.9	8.3	5.6		
4	3	1	1		5	2	1	1			15	13	1	1	1		
44.4	33.3	11.1	11.1		55.5	22.2	11.1	11.1			48.4	41.9	3.2	3.2	3.2		
15	13	1	1	1	12	14	2	2	1		46.0	42.8	4.9	3.2	1.6	1.6	
48.4	41.9	3.2	3.2	3.2	38.7	45.2	6.5	6.5	3.2		14	8	3	2	1		
50.0	28.6	10.7	7.1	3.6	42.9	32.1	21.4		3.6		51.8	29.5	18.0	5.4	1.8	0.9	
	2	1				1	2										
	66.7	33.3			33.3	66.7					41.7	50.0					
40	34	12	5	4	38	36	15	4	2								
42.1	35.8	12.6	5.3	4.2	40.0	37.9	15.8	4.2	2.1		45.5	35.0	11.1	5.3	1.6	1.6	

ない。四地点を平均すると35.4パーセントという低い割合である。「方言形」の現れる割合から見ると、河辺61.1パーセント、荒屋新町57.0パーセント、弘前54.1パーセント、田山51.4パーセントの順になりいずれも50パーセントを越えている。人間関係が地域社会と密着したものであって、したがって「方言形」が現れ易いのだと言えよう。しかも、「併用」が「方言形のみ」「共通語形と方言形」を合わせて弘前7項目、河辺11項目、田山6項目、荒屋新町4項目とあり、場面・状況の違いによる言い分けが多くあることも示している。ただ、「別語形」「無答」の割合の合計が、弘前9.8パーセント、河辺4.2パーセント、田山11.1パーセント、荒屋新町11.1パーセントというように、河辺を除いてはほぼ10パーセント前後と、ある程度高い割合を示しているのだから、これらの地点では、項目名に合致する共通語形をもたずさりとて方言形も持たず、あいまいにしか把握できないことがあると言えよう。

感情・行動部門を品詞別に五つの種類に分けた。その総計で見ると、「共通語形」の現れる割合が河辺が53.7パーセントと最も高い。これは、植物部門で同地点が最も低いのと正反対の現象である。次いで弘前46.3パーセント、そして田山42.1パーセント、荒屋新町40.0パーセントと続く。その割合は、人間関係部門ほどではないが、それと似た低率である。それでは「方言形」を多く持っているのであろうか。「併用」も含めると、「方言形」の現れる割合は、弘前46.3パーセント、荒屋新町44.2パーセント、田山41.1パーセント、河辺35.8パーセントの順となり、最も高い弘前でさえも50パーセントを越えていない。全地点を通して「方言形」の現れる割合も低い。これは、感情・行動部門が「共通語形」「方言形」いずれでも表す割合が少ないということである。「無答」も河辺2.1パーセント、田山4.2パーセントだけで割合は高くない。とすると、「別語形」で現わす割合が高いということである。弘前7.4パーセント、河辺8.4パーセント、田山12.6パーセント、荒屋新町15.8パーセントという割合を示し、しかも都市型・農村型地点よりも山村型地点が高くなっている。つまり、感情・行動という主観性の濃厚な表現が、共通語の意味範疇とずれがある場合が多く、それは都市型・農村型地点よりも山村型地点で顕著であるということが言えよう。したがって、現れた「別語形」も、調査項目の意味内容と正確に一致しているとは言えず、かなり無理な言い換えが行われている場合が多いと考えられる。このことは、感情・行動部門に現れた語形の品詞が、項目名の共通語形の品詞と異なる場合があることから確かめられる。名詞項目24のうち、語形が動詞または形容詞・形容動詞で現れたものは、弘前で3項目、河辺で2項目、田山で3項目、荒屋新町で6項目ある。動詞項目では、別品詞で現れたものが、河辺で2項目、田山で1項目、荒屋新町で1項目ある。形容詞・形容動詞項目では、弘前で1項目、田山で1項目ある。ちなみに、他部門で別品詞の現れたのは、植物部門の弘前1項目のみである。

以上が感情・行動部門の全体的傾向であるが、これを品詞別にして傾向の違いを見ていく。63ページの図は品詞別の「共通語形」の現れる割合を示したものである。なお副詞は語数が少ないので省いた。

地点ごとにそれぞれの品詞の割合が異なり、必ずしも共通した傾向は表れない。それでも四地点に共通して、形容詞・形容動詞が名詞・動詞よりも「共通語形」の現れる割合が高い。また、動詞と名詞とを対比した場合、河辺を除いて他の三地点では動詞に「共通語形」



の現れる割合が高い。この点、植物部門で名詞と動詞とを対比した場合、名詞に「共通語形」の現れる割合が高いのとはほぼ逆の傾向を示していると言える。ただ、この「共通語形」の現れる割合の傾向が、そのまま「方言形」の現れる割合と反比例の関係で結びついているとは限らず、例えば、名詞と動詞を対比して見た時、「方言形」の現れる割合は四地点とも動詞のほうが高い。ということは、名詞は概して、「共通語形」も「方言形」もともに現れにくいと言えよう。

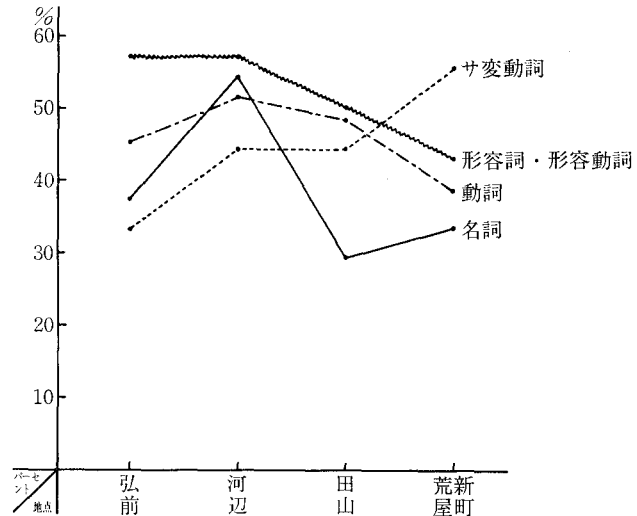
## (2) 部門ごとの対比

(1)で地点ごとに語形の現れ方の傾向の違いを見たが、ここでは部門ごとの語形の現れ方を中心に見ていく。

まず、四地点の平均を比較すると、「共通語形」の現れる割合は、総計で、最も高いのが植物部門68.3パーセントであり、次いでかなり差があって感情・行動部門45.5パーセント、そして人間関係部門35.4パーセントである。ただ、人間関係部門が名詞しかないので、名詞に限って比較すると、植物部門71.9パーセント、感情・行動部門38.6パーセント、人間関係部門35.4パーセントと、植物部門の割合はさらに高くなる。共通語形の現れやすい部門と言えよう。動詞では、植物部門が44.7パーセント、感情・行動部門が46.0パーセントと共通語形の現れる割合はほとんど変わらない。これに対して「方言形」の現れる割合を併用も含めて比較すると、低い順に、総計で植物部門27.6パーセント、感情・行動部門41.9パーセント、人間関係部門55.9パーセントとなり、名詞に限定しても植物部門25.5パーセント、感情・行動部門39.6パーセント、人間関係部門55.9パーセントと順位は変わらず、これは、「共通語形」の現れる割合の順位に対応する。「別語形」の現れる割合は、総計で感情・行動部門11.1パーセント、人間関係部門7.0パーセント、植物部門2.6パーセントの順となり、これを名詞のみに限定すると、感情・行動部門18.8パーセント、人間関係部門7.0パーセント、植物部門0.8パーセントと同じ順位ながらその割合の差はさらに大きくなる。これは、部門ごとの共通語の意味内容と方言の意味内容の重なり方の問題ということだけではなく、共通語社会と方言社会の重なり方という、人間の生活の仕方とかかわる大きな問題だということも考えられよう。

以上、四地点の平均で各部門の語形の現れ方の傾向を見たが、これをそれぞれの地点に分けてその主な特徴を見て行く。

弘前の「共通語形」の現れる割合は、三部門の比較で、四地点平均の傾向とそう大きな違



いはない。ただ、他地点に比して、植物部門の「共通語形」の現れる割合がきわめて高いのに対して、人間関係部門、感情・行動部門の割合の低いのが目立つ。これは、名詞にだけ限定した場合さらに顕著になる。「方言形」の現れる割合で見ると、名詞だけで比較して植物部門が18.0パーセント、人間関係部門54.1パーセント、感情・行動部門50.0パーセントと、植物部門の割合の極端な低さが目立ち、人間関係部門と感情・行動部門がほぼ同じ割合で並んでいる。河辺の「共通語形」の現れる割合は、植物部門と感情・行動部門が同じ50パーセント台で、人間関係部門が30パーセント台である。植物部門の割合の低さが目立つ。田山の「共通語形」の現れる割合のうち、人間関係部門が四地点のうち最も高い37.5パーセントを示している。逆に感情・行動部門の名詞が四地点のうち最も低い29.2パーセントを示している。そして、「共通語形」の現れる割合を三部門の平均で見ると、48.3パーセントと、荒屋新町とともに最も低い割合である。ちなみに、弘前が53.2パーセント、河辺が49.1パーセントである。これを名詞だけに限定すると、弘前51.3パーセント、河辺50.4パーセント、田山44.9パーセント、荒屋新町47.9パーセントと田山が最も低い割合を示す。荒屋新町は、「共通語形」の現れる割合が、植物部門で弘前について二番目の71.6パーセントを示し、河辺、田山とかなりの差がある。名詞だけに限定すると、さらに弘前の割合に接近し、河辺、田山とその差を大きくする。ところが、人間関係部門では、「共通語形」の現れる割合が33.3パーセント、感情・行動部門では40.0パーセントと四地点のうちの最低を示す。この地点の一つの特徴と言えよう。この地点のもう一つの特徴として「別語形」の現れる割合の高いことがある。ことに、感情・行動部門で顕著で、弘前7項目、河辺8項目、田山12項目を上まわる15項目が「別語形」である。三部門通して見ても、弘前14項目、河辺13項目、田山24項目を上まわる26項目である。

#### 四. お わ り に

方言社会における基礎語彙と言われるものの、共通語と方言との関係・割合がかなり明らかになったと思う。そのかわり合い方は、予想以上に複雑で変化に豊んでいる。地域社会に住む人々は、そのような重層構造の言語体系の中で生活していると言える。

本稿で取り上げた内容は、全語彙の中のごく一部であり、調査の仕方にも不十分な点が多々あった。例えば、共通語形を与えてそれに対応する方言形を聞き出す調査法をとったので、方言社会に特有の表現法をとらえることができなかつたなどである。それらのことは、今後に残された課題としたい。

〔付記〕 本稿は、昭和50・51年度文部省科学研究費総合研究(A)による研究の一部である。